

はじめに

患者さんの口腔の健康を長期的に維持していくことを目指す、いわゆる予防管理型の歯科診療の実践には、初診時、再評価時、そしてメインテナンス期間中に行う規格性のある検査が必要不可欠です。

とくに口腔内写真は、患者さんが自らの口腔の状態を理解し、疾患であることに気づくための資料として、最も活用されます。同時に、患者さんとの長期的なかかわりのなかで起こる変化を記録するためにも、重要なものであることは言うまでもありません。

しかし、来院するすべての患者さんに口腔内写真を撮影しているという歯科医院はまだ少なく、症例として残しておきたい場合や、撮影しやすい患者さんを選択的に撮影している場合が多いようです。

口腔内写真撮影を検査のルーティンに組み込むには、撮影は1人で行い、患者さんに痛みを与えずに、10分以内に撮影を終えられることが理想です。

本書は、DHstyle2015年1～12月号に1年間連載した「撮って活かす！ 口腔内規格写真」の内容を集約した1冊です。口腔内規格写真撮影に必要な構図などの知識はもちろん、各部位撮影の手順を詳細にまとめました。

撮影に慣れていない人は、本書をチェアサイドに置いて、スタッフ
同士で練習することから始めてみましょう。患者さんに痛みを与えず、
短時間で撮影するための粘膜の引き方やミラーの角度などのコツを学ん
でいただけることと思います。

また、口腔内写真の撮影法のみならず、写真の説明や読み取り方など
も解説しています。そのため、口腔内写真を臨床で幅広く活用してい
ただけると期待しています。

最後に、本書の製作にあたり、多大な協力を賜りました、千葉県八千
代市 杉山歯科の蓮見 愛さん、太陽歯科衛生士専門学校様、同 教務の山
田美穂さん、埼玉県川越市 ひかり歯科 院長 星原如子先生とスタッフの
皆様へ、この場をお借りして感謝申し上げます。

2016年3月

落合真理子

